

二三六八番

たらちねの 母が手離れ かくばかり すべなき
ことは いまだせなくに

二三六九番

人の寝る 甘睡は寝ずて はしきやし 君が目す
らを 欲りし嘆かふ

二三七〇番

恋ひ死なば 恋ひも死ねとや 玉梓の 道行き人
の 言も告げなく